

第15回 科学技術社会論学会年次研究大会・総会（2016年度）プログラム

11月5日（土）

【第1セッション】 9:30 - 11:00

A-1-1【GS】リスクと安全

座長：標葉 隆馬

吉田 省子(北海道大学)

「消費者団体は官が主催するリスクコミュニケーションのパートナーなのか？」

辛島 恵美子(関西大学)

「安全の思想から見た安全概念錯覚の経緯」

寿楽 浩太(東京電機大学)

「日本の原子力政策に見る構造災の再生産構造（3）－規制当局や第三者機関の役割に関する政策の失敗軌道－」

B-1-1【OS】地域への実装に向けた論理と倫理—福島県いわき市における津波被災地の事例から—

オーガナイザー：松本 行真(東北大学)

松平 好人(江戸川大学)

「知識の形式化—知識経営の観点から—」

山田 修司(東北大学)

「「実装」プロセスにおける安全・安心を決める論理と倫理」

松本 行真(東北大学)

「協働と支援による知識移転と社会実装の可能性—松平，山田報告をふりかえって—」

【第2セッション】 A・B会場 11:10 - 12:40

C・D会場 10:40 - 12:40

A-1-2【GS】地域社会と合意形成

座長：平川 秀幸

小林 貴子(東京大学)

「BSL-4施設の立地に関する一考察：合意形成の背景をもとに」

吉永 明弘(江戸川大学)

「再生可能エネルギー開発に関する環境倫理的検討」

秋元 且(東京工科大学)・渋谷 健(フィールド・フロー株式会社)・澤谷 由里子(東

京工科大学)

「自律性とソーシャルキャピタルに注目したシェア型のコミュニティ形成とイノベーション促進に関するモデル化」

B-1-2 【OS】 グローバル安全学の地域社会実装に向けた実践とその評価

オーガナイザー：久利 美和(東北大学)

久利 美和(東北大学)

「科学教育と防災教育と論理的思考教育の融合の試み」

長谷川 翔・平田 萌々子・石澤 堯史・伊藤 大樹・昆 周作・山田 修司・磯崎 匡・松岡 祐也・佐々木 隼相・松本 行真・久利 美和(東北大学)

「福島県いわき市沿岸部における地域の安全・安心の社会実装に関する取組」

小川 剛史・牛 増淵・蘇 亮・李 允成・久利 美和(東北大学)

「STS 教育実践：工場地帯誘致をめぐるワークショップ」

C-1-2 【OS】 予測と社会

オーガナイザー：鈴木 舞(東京大学)

山口 富子(国際基督教大学)

「農業イノベーションの予測の自己実現」

瀨藤 一起(東京大学)

「地震動の予測と原子力安全審査」

日比野 愛子(弘前大学)

「社会シミュレーションにおける予測と行為遂行性」

鈴木 舞(東京大学)

「犯罪に関する予測と社会」

D-1-2 【OS】 人工知能が浸透する社会を考えるワークショップ 2016

オーガナイザー：江間 有沙(東京大学)

加瀬 郁子(東京大学)・中村 崇二(中村一三税理士事務所)

「税理士の人工知能に対する期待と懸念」

藤田 卓仙(名古屋大学)

「精神科医療における人工知能の活用に向けた法政策」

井上 悠輔・吉田 幸恵(東京大学)

「ゲノム医療と人工知能の研究開発段階における諸問題」

久保 明教(一橋大学)

「現代将棋における棋士とソフトの相互作用をめぐる：存在論的相対化と否定形のアナロジー」

江間 有沙(東京大学)・秋谷 直矩(山口大学)・市瀬 龍太郎(国立情報学研究所)・
大家 慎也(神戸大学)・大澤 博隆(筑波大学)・大谷 卓史(吉備国際大学)・神崎 宣
次(南山大学)・久保 明教(一橋大学)・久木田 水生(名古屋大学)・駒谷 和範(大阪
大学)・西條 玲奈(北海道大学)・田中 幹人(早稲田大学)・服部 宏充(立命館大学)・
本田 康二郎(金沢医科大学)・宮野 公樹(京都大学)・八代 嘉美(京都大学)・山下
倫央(産業技術総合研究所)・吉澤 剛(大阪大学)

「人工知能に関する異分野協同研究の視点と方法」

【昼休み】 12:40 - 14:10

14:10 - 16:10 大会実行委員会企画ワークショップ

「STSにおけるアクションリサーチを考える」

場所：B会場(E208)・C会場(E214)

永田素彦（京都大学）

「コミュニティの災害復興の実践研究」（聞き手：三上直之）

八木絵香（大阪大学）

「“被害者”と“加害者”のあいだにある」という方法」（聞き手：吉田省子）

植木哲也（苫小牧駒澤大学）

「研究が引き起こすアイヌ遺骨問題」（聞き手：蔵田伸雄）

早岡英介（北海道大学）

「音声映像メディアを現地調査にどう活用するか」（聞き手：郡伸子）

16:25 - 17:05 総会

場所：S会場(E201)

17:05 - 17:25 柿内賢信記念賞(奨励賞・実践賞)授与式

場所：S会場(E201)

【懇親会】 17:50 - 20:00

場所：ファカルティハウス「エンレイソウ」

11月6日(日)

【第1セッション】 9:00 - 10:30

A-2-1【OS】課題解決のためのプラットフォーム戦略

オーガナイザー：難波 美帆(グロービス経営大学院)

田中 晋吾(北海道大学)

「プラットフォームを通じた異分野連携の推進-北極域研究の例-」

江端 新吾(北海道大学)

「先端研究基盤プラットフォームによる大学経営改革～北大グローバルファシリティセンター構想～」

森本 行人(筑波大学)

「人社系の強みや社会的役割を活かしたプレゼンス向上の一例」

B-2-1【GS】コミュニケーション

座長：日比野 愛子

山本 輝太郎・石川 幹人(明治大学)

「「水素水」関連言説における科学コミュニケーションの実態

ー「疑似科学とされるものの科学性評定サイト」を媒介して」

標葉 隆馬(成城大学)・八代 嘉美(京都大学)

「再生医療を巡るコミュニケーションとその課題」

藤澤 空見子・武藤 香織(東京大学)

「遺伝カウンセリングにおける科学的知識の位置付けー非侵襲的出生前遺伝学的検査を中心にー」

C-2-1【GS】研究者・学会

座長：夏目 賢一

河野 銀子(山形大学)・横山 美和(お茶の水女子大学)・財部 香枝(中部大学)・小

川 眞里子(三重大学)

「「パイプライン」理論に関するレビューー女性研究者支援政策の国際比較に向けて」

黒田 光太郎(九州産業大学)

「日本における女性科学者の先駆けは研究環境をいかに獲得したか」

柴田 清(千葉工業大学)

「国内学協会の会誌・会報にみる特性分類」

D-2-1 【OS】 参加型エネルギー教育プログラムとしての「次世代エネルギーワークショップ」の開発とその成果・評価

オーガナイザー：前田 洋枝(南山大学)

木村 浩(NPO 法人パブリック・アウトリーチ，一般社団法人環境政策対話研究所)

「次世代エネルギーワークショップの成果について」

前田 洋枝(南山大学)

「学生のエンパワーメントの観点から見た次世代エネルギーワークショップの評価」

柳下 正治(上智大学，一般社団法人環境政策対話研究所)

「次世代エネルギーワークショップの可能性と今後の課題」

【第2セッション】 10:40 - 12:40

A-2-2 【GS】 イノベーション

座長：山口 富子

勝屋 信昭(東京工業大学)

「新しい知識生産について」

今井 寿子(立命館大学)

「ローテクとイノベーション」

早川 葵(関西大学)

「日本におけるペルソナ法の使用と定着」

島添 順子(ジェトロ・アジア経済研究所)

「成熟経済下の知識生成力と研究開発 HRM」

B-2-2 【GS】 生命倫理・研究倫理

座長：隠岐さや香

佐々木 香織(小樽商科大学)

「フィクションとファクトのあいりー日本の医師患者関係・生命倫理モデルの形成ー（故金森修教授に捧ぐ）」

佐藤 桃子・武藤 香織(東京大学)

「出生前遺伝学的検査のガバナンスの変遷」

林 真理(工学院大学)

「生命科学の社会的意思決定におけるステークホルダーの変容」

植木 哲也(苫小牧駒澤大学)

「研究用アイヌ遺骨のゆくえー杵臼コタンへの返還と今後の問題」

C-2-2 【OS】「科学技術<社会>論」の社会的機能

オーガナイザー：木原 英逸(国士舘大学)

塚原 東吾(神戸大学)

「日本的な STS のポジショニングーSTS 左派, 主流派, 意識的政策適応学派などの派閥形成ー」

吉岡 斉(九州大学)

「福島原発事故に際して批判的科学者が果たした役割」

中島 秀人(東京工業大学)

「STS は社会の期待に応えられるのか」

木原 英逸(国士舘大学)

「社会/的なもの」を見失った時代の「社会的責任論」ーSTS の「科学者の社会的責任」論を評すー」

D-2-2 【OS】 終わりつつある BSE ではあるが～リスクコミュニケーションとリスク管理～

オーガナイザー：吉田 省子

小林 国之(北海道大学)

「大学院教育の中でリスクコミュニケーション問題を如何に扱うか」

吉田 省子(北海道大学)

「問題が終息しかけている時の人々の未来の選び方」

明田川 知美(北海道武蔵女子短期大学)

「ファシリテーターの目に映るリスクコミュニケーション問題の課題」

竹内 琳加(北海道大学)

「対話の場の理想状態とは：2軸「知識理解」と「信頼形成」

西 英機(北海道農政部)

「行政がリスク評価結果をリスク管理に活かすとき」

【昼休み】 12:40 - 14:00

12:50 - 13:50 柿内賢信記念賞(特別賞)授与式および同受賞者記念講演

【第3セッション】 14:00 - 16:00

A-2-3【GS】教育

座長：平田 光司

吉岡 有文(立正大学)

「日本の1930年代における映写機の普及と教育映画の発展
教育における映像メディアの科学技術社会論的検討」

池田 貴子・早岡 英介(北海道大学)

「科学技術コミュニケーション教育への期待と評価」

小林 俊哉(九州大学)

「科学技術コミュニケーションが大学院生にもたらす意識変容・STS ステートメントによる事例」

楠美 順理(中京大学)

「判断力」教育用のチャート式教材開発とその意義」

B-2-3【OS】「知ろうとすること」と「知らせること」のあいだ

オーガナイザー：尾内 隆之(流通経済大学)

大関 ゆかり(放射能と環境を考える会)

「東電原発事故責任者，専門家と市民のはざままで—私たちが知りたい情報は？」

水島 希(総合研究大学院大学)

「放射能測定運動におけるフレーミング—「市民測定所」30年の理念と福島事故後の活動」

原 塑(東北大学)

「生物学的シティズンシップとリスクコミュニケーション」

ディスカッサント：平川 秀幸(大阪大学)，尾内 隆之(流通経済大学)

C-2-3【OS】脱成長時代の科学・技術と社会の諸問題—2010年代の通史に向けて—

オーガナイザー：川野 祐二(下関市立大学)

綾部 広則(早稲田大学)

「2010年代日本の科学技術政策—背景と特徴—」

黒田 光太郎(九州産業大学)

「第4次エネルギー基本計画以降のエネルギーをめぐる動向—その批判的検討—」

菅波 完(高木仁三郎市民科学基金)

「自治体におけるエネルギー政策関連の専門家委員会等に関わる論点整理」

中島 美津子(東京医療保健大学)

「利害関係からみた医療」

川野 祐二(下関市立大学)

「市民運動・NPO・利益集団とエネルギー政策」

D-2-3 【OS】 気候変動リスク管理における科学的合理性と社会的合理性の相互作用

オーガナイザー：宗像 慎太郎(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)・八木絵香(大阪大学)

八木 絵香(大阪大学)・山内 保典(東北大学)

「気候変動問題における市民参加の再検討」

宗像 慎太郎・森本 高司・高橋 湊(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)

「気候変動対策の判断にみる適切性と合理性」

桑田 学・草深 美奈子(東京大学)

「気候変動問題をめぐる社会的合理性と倫理」

ディスカッサント：蔵田 伸雄(北海道大学)

【第4セッション】 16:10 - 17:40

A-2-4 【GS】 理論

座長：綾部 広則

猪口 智広(東京大学, 日本学術振興会)

「ダナ・ハラウェイの伴侶種論における技術」

萩原 優騎(東京海洋大学)

「ローカル・ノレッジの形成と「慣れ」の問題」

杉原 桂太(南山大学)

「自動走行車のためのアクターネットワーク理論に基づく構築的テクノロジー・アセスメント」

B-2-4 【GS】 原発事故

座長：黒田 光太郎・蔵田 伸雄

成 元哲(中京大学)

「福島は「復興」したのか—福島県中通り親子パネル調査からの検討—」

三上 直之(北海道大学)・成 元哲(中京大学)

「「参加型リサーチ」の限界とその克服の可能性～福島県中通りの親子を対象と

したある社会調査の事例から～」

八巻 俊憲(東京工業大学)

「専門家不信の背景－福島原発事故問題に対する専門家と被災者の意思決定と合理性－」

C-2-4 【OS】「責任ある研究・イノベーション」のための組織と社会

オーガナイザー：川本 思心(北海道大学)

中村 征樹(大阪大学)

「日本の研究公正の現状と課題」

標葉 隆馬(成城大学)・吉澤 剛(大阪大学)・上田 昌文(NPO 市民科学研究室)・

中尾 央(山口大学)・川本 思心(北海道大学)

「学会組織は RRI 教育を担い得るか」

川本 思心(北海道大学)

「RRI とデュアルユース研究」

D-2-4 【GS】環境

座長：柴田 清

吉田 悦子(東京大学)

「環境政策における科学者の役割と市民参加に関する研究」

朝山 慎一郎(国立環境研究所)・杉山 昌広(東京大学)

「気候の人為的な制御をめぐる「期待」と「不安」：いかに一般市民は気候工学の屋外実験を（非）正当化するのか？」

齋藤 さやか(東京大学)

「気候変動問題をめぐるマス・メディア報道－IPCC 報告書報道に関する日米英比較分析」